

地震

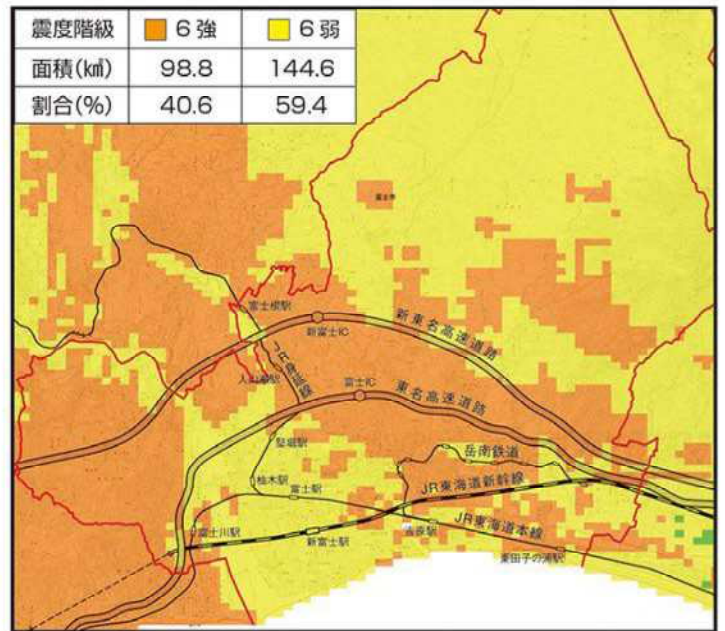
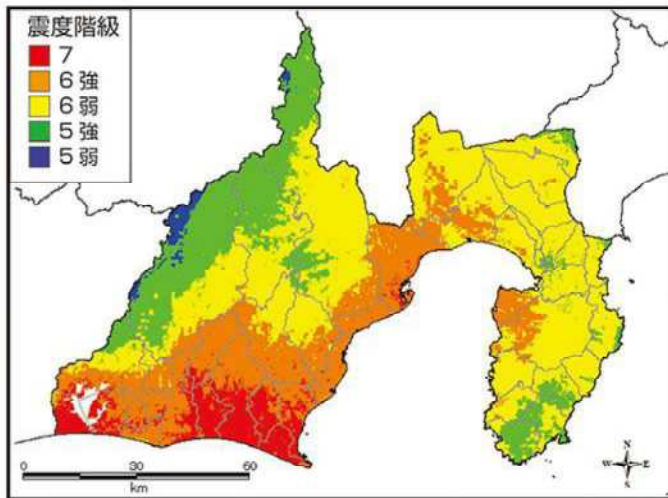
富士市の震度分布(静岡県第4次地震被害想定より)

南海トラフ地震により市内で想定される地震の揺れは下図のとおりです。富士市は、過去に観測された揺れに比べ、はるかに大きい震度6弱～6強の、身動きが取れないような揺れに見舞われます。また、東日本大震災のように、強弱を繰り返しながら最大3～4分間継続すると想定されています。

身を守ることもできないような揺れに備えるためには、**家屋や家具・家電の耐震対策が必要です。**

→木造家屋の耐震対策についてはP21

→家具の転倒等でケガをしない方法についてはP22



震度区分別面積集計表(静岡県内)

推定震度	7	6強	6弱	5強	5弱	4以下	合計
面積(km ²)	658.6	1,952.4	3,510.3	1,509.9	84.8	0.0	7,716
割合(%)	8.5	25.3	45.5	19.6	1.1	0.0	100.0

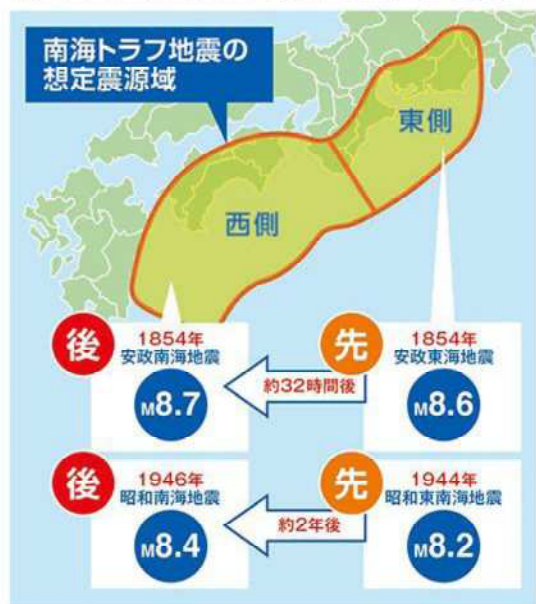
【参考】静岡県統合基盤地理情報システム(ご覧になりたい場所を拡大して見ることができます。) URL <http://www.gis.pref.shizuoka.jp/>

震 度 階 級

<p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>【震度4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。 <p>2009年(平成21年)8月11日5時7分 駿河湾地震の富士市の震度</p> <p>2011年(平成23年)3月11日14時46分 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の富士市の震度</p>	<p>【震度5弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。 <p>2011年(平成23年)3月15日22時31分 静岡県東部地震の富士市の震度</p>	<p>【震度6弱】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 	<p>【震度6強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はわないと動くことができない。飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。
<p>【震度5強】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。 	<p>【震度7】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。 		

南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフでは、想定震源域の東側と西側で時間差で、大規模地震が発生した事例が複数回あります。



図：過去の南海トラフ地震(Mはモーメントマグネチュード)

南海トラフ地震臨時情報(以下、「臨時情報」といいます)は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、想定震源域内で大規模地震や地殻変動など異常な現象が観測された場合に、気象庁より発表されます。

例えば、過去の事例とは逆に南海トラフ沿いの西側で先に大規模地震が発生し、東側でも地震が続発する(後発地震)可能性が高まった場合などに発表されます。

臨時情報が発表された際は、後発地震に備え、国や市からの呼びかけに応じた防災対応をとりましょう。

1854年安政東海地震と安政南海地震

南海トラフの東側で地震が発生した約32時間後に、西側でも地震が発生

1944年昭和東南海地震と昭和南海地震

南海トラフの東側で地震が発生した約2年後に、西側でも地震が発生

臨時情報が発表される「異常な現象」とは

臨時情報が発表される異常な現象には、「半割れケース」「一部割れケース」「ゆっくりすべりケース」の3通りがあります。

半割れ(大規模地震M8.0以上)/被害甚大ケース

〈評価基準〉

・南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフの西側でM8クラスの地震が発生



半割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は十数回に1回程度(過去の事例では、103事例中7事例あり)で、通常の100倍程度の確率。

※通常「30年以内に70~80%」の確率を7日以内に換算すると千回に1回程度

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表

一部割れ(前震可能性地震M7.0以上8.0未満)/被害限定ケース

〈評価基準〉

・南海トラフの想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合(半割れケースの場合を除く)

南海トラフで地震(M7クラス)が発生

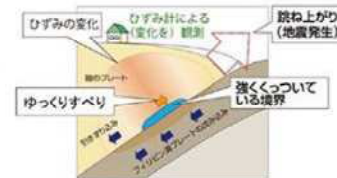


一部割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は数百回に1回程度(過去の事例では、1437事例中6事例あり)で、通常の数倍程度の確率。

ゆっくりすべり/被害なしケース

〈評価基準〉

・ひずみ計等で有意な変化として促えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表

南海トラフ沿いで発生した異常な現象に応じて、以下の情報が発表されます。

南海トラフ地震臨時情報	調査中	■ 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震注意	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の数倍程度の状態
	巨大地震警戒	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の数倍程度の状態
	調査終了	■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

南海トラフ沿いでの地震発生後の対応の流れ

南海トラフ地震が発生したら... **地震発生** 揺れを感じたらまず身を守る行動を

家庭で

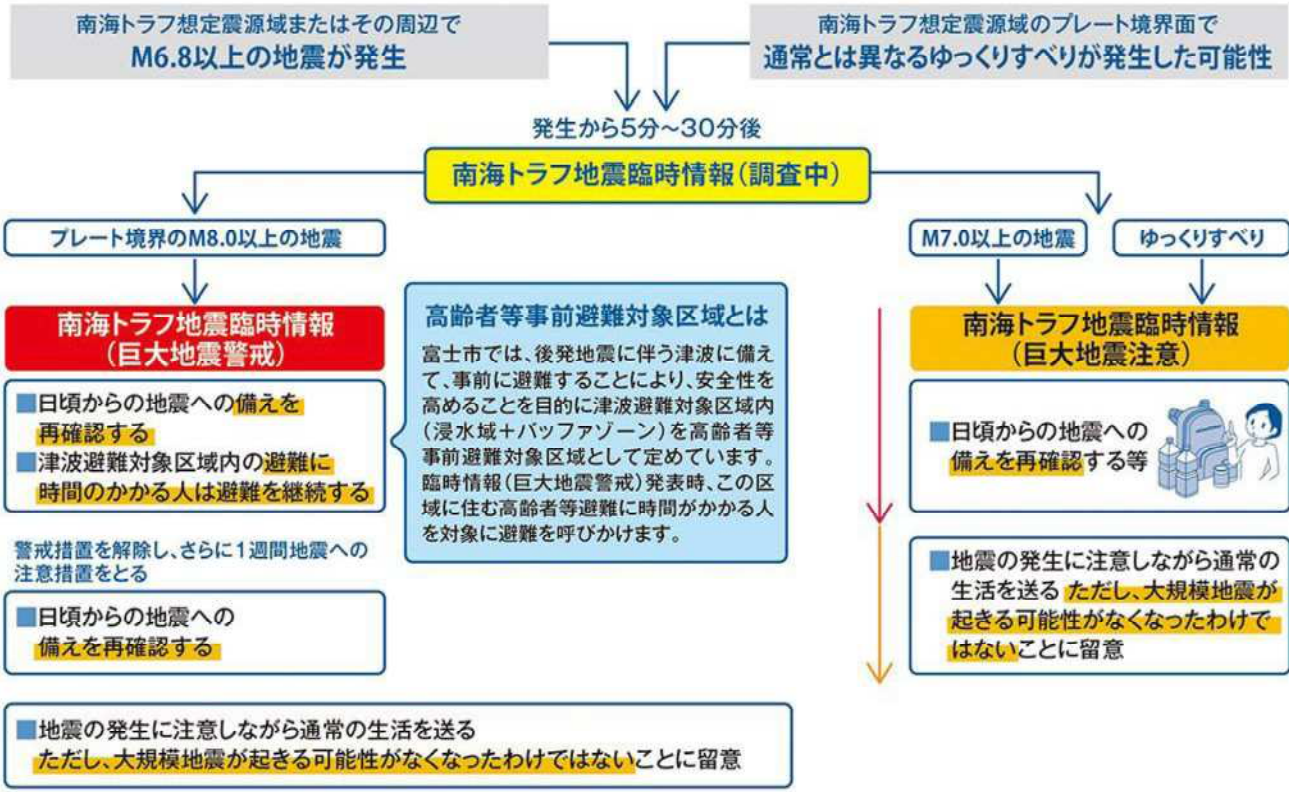
頭を保護して机の下など頑丈な場所に隠れる

屋外で

ブロック塀や電柱、自動販売機など、倒れる危険のある場所から離れる

沿岸部で

津波避難対象区域内の住民は全員避難する



I 富士市の自然災害

※ゆっくりすべりが観測された場合はそれが収まったと評価されるまで

富士川河口断層帯



富士川河口断層帯は、富士川の河口周辺からほぼ南北に延びる活断層帯です。

調査により推定される位置は図のとおりで、マグニチュード8.0程度の地震を引き起こす可能性があると考えられていますが、活動間隔や地下構造についてはほとんど分かっていません。

平均活動間隔等は下表に示す、ケースa、ケースbの2つの見解があり、その2つを下限、上限とする範囲内の値となる可能性があると考えられています。

	ケースa	ケースb
過去の平均活動間隔	約150年~300年	約1,300年~1,600年
過去の地盤隆起量 (西側が東側に対して相対的に隆起する量)	1~2m程	10m程度
今後30年以内の地震の発生確率	10~18%	2~11%

富士川河口断層帯の近くにお住まいの方はもちろんですが、それ以外にも、発見されていない断層は数多く存在すると言われていたため、強い揺れに対する十分な備えは、全ての市民の皆さん共通の課題です。